

令和6年度岩倉市行政評価委員会 行政評価結果報告書

令和6年度に開催した岩倉市行政評価委員会において、令和5年度実施施策の一部の評価を行った。

本委員会では、施策担当課長が施策や取組の内容、指標の実績、分析状況を説明し、質疑を踏まえて、委員全員が評価し、本委員会としての評価を取りまとめたものである。その結果の概要について報告する。

1. 総括

令和4、5年度の2カ年で行った第5次岩倉市総合計画の施策評価が一回りし、令和6年度は二回目目の評価の開始年度であったが、計画開始後3年が経過し、各施策を推進するなかで順調に進んでいるものもあれば、予定通りに進まないものもあり、施策ごとの課題や状況がより明らかになってくるなかでの評価となった。

評価は、取組内容と成果指標のそれぞれの達成度を組み合わせたものであり、全体として評価結果「B 施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる」が過半数を占めるという状況に変化はないものの、庁内プロジェクトチームにて検討した新たな取組みの実施や、組織・機構の再編による弾力的な組織体制の構築等により、前回評価（令和4年度評価、令和5年度評価の一部）と比較して16の単位施策の評価が上昇し、うち、5つの単位施策が新たに評価結果「A 施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる」となった。一方で、7の単位施策で評価が下がっており、特に高齢を理由とした既存団体からの脱退や脱会により成果指標の達成度が下がった施策もあり、新たな担い手の確保や社会情勢に合わせた制度の見直し等が課題である。

今後に向けては、単位施策ごとの取組内容等について第5次岩倉市総合計画基本施策評価シートに本委員会からの評価やコメントを付したため、各担当課においては、本委員会での評価結果、委員からの質問や意見を踏まえて、記載内容や取組内容の改善に努め、施策を推進してほしい。

2. 評価対象施策

毎年概ね半分の施策について評価する。今年度は、第5次岩倉市総合計画基本目標のうち、第1章、第2章、第5章の一部（17 基本施策、44 単位施策）を評価対象とし、評価を行った。

3. 評価結果

		評価結果					計
		A	B	C	D	E	
令和5・6年度	令和6年度評価 (令和5年度実施施策)	6	24	13	1	0	44
	令和7年度評価 (令和6年度実施施策)						
	計	6	24	13	1	0	44
	構成比	13.6%	54.5%	29.5%	2.3%	0.0%	100.0%
令和3・4年度	令和4年度評価 (令和3年度実施施策)	1	16	19	0	0	36
	令和5年度評価 (令和4年度実施施策)	1	33	15	1	0	50
	計	2	49	34	1	0	86
	構成比	2.3%	57.0%	39.5%	1.2%	0.0%	100.0%

A…施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる

B…施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる

C…順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要

D…取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要

E…取組ができておらず、単位・個別施策の見直しの検討も必要

※構成比は小数点第2位を四捨五入

※単位施策ごとの評価結果は「令和6年度行政評価結果（令和5年度実施施策）」のとおり

※詳細については別紙「第5次岩倉市総合計画基本施策評価シート（令和5年度実施施策）」のとおり

4. 実施日時

開催日時	会場
令和6年10月1日（火）午後2時から	市役所7階 大会議室
令和6年10月17日（木）午前9時から	
令和6年11月7日（木）午後2時から	

5. 岩倉市行政評価委員会委員名簿

	氏名	選出区分
委員長	千頭 聡	識見を有する者
副委員長	小松 尚	
委員	夷藤 芳達	企業の代表者 労働組合の代表者 市民活動団体の 代表者 市民の代表者
	宇佐美 隆久	
	鈴木 健之	
	村上 貴司	
	三輪 紀光	
	水野 孝司	
	吉田 朋恵	
	万年 真衣	

6. 来年度評価に向けた提言

成果指標等、未だコロナ禍の影響があると分析している施策もあるが、5類感染症へ移行し既に1年以上が経過していることに加え、成果指標の達成に向けてこれまで以上に内的な要因にも目を向ける必要があることから、来年度はコロナ禍の影響以外のところで分析や評価をしてほしい。